

	<h2>むかし懐かしの田園風景を復元！</h2> <h3>～「橋戸田んぼ」で小学生が待望の収穫体験～</h3>	
<p>と き</p>	<p>10月17日(水) 午前 8時45分～ 9時50分 大泉北小学校 午前 10時30分～ 11時40分 橋戸小学校 10月18日(木) 午後 1時30分～ 2時10分 大泉第一小学校</p>	
<p>ところ</p>	<p>練馬区立大泉橋戸公園 (大泉町2-9-34)</p>	
<p>17日、18日に区立大泉橋戸公園(大泉町2丁目)内の水田で、近隣の小学校3校(大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校)の5年生228人が、6月に自分たちで植えた稲の収穫を体験した。</p> <p>橋戸田んぼは、昔の田園風景の復元を望んだ周辺の小学校や地域団体の強い要望を受けて区が整備した。管理運営は、地域団体の「橋戸水田自主管理会」が行っている。</p> <p>児童らは、管理会の方から説明を受けた後、鎌を手にして、稲刈りを体験した。収穫した稲は、調理実習や収穫祭で味わう予定。</p>		



▲稲刈りを教わる児童

【当日の様子】

稲刈り体験を行った児童らは「稲がザクッと切れて面白い」「もっとやりたい」などと話していた。

また、田植え以降、除草、防鳥ネット張り、毎日の水量調整をしてきた橋戸水田自主管理会の会長は、「年々、子どもたちの鎌の使い方が上手になっているのは、刃物を使う心得や方法を先生が指導されている賜物だろう。今年は大きな台風にも見舞われたが、この稲は『キヌヒカリ』という背丈が小ぶりの品種であるため倒れず、今日無事に稲刈りができ、子どもたちに喜んでもらえてうれしい。」と話してくれた。



▲自分で刈り取った稲を持つ児童

【田んぼの生き物たち】

児童らは、手慣れた様子で作業を進めながら、田んぼの生き物たちに関心が行く様子だった。「バッタがいる」「カナヘビつかまえた」「カマキリの卵が稲に付いてた。ラッキー」「でかいカエルがいる」と目を輝かせていた。この様子に会長は、「これからも、子どもが触れたり食べたりするお米なので一切農薬や化学肥料を使わず栽培し、田んぼの生き物も大切にしていきたい」と意気込みを語った。



▲カマキリの卵を見つけた児童

【橋戸田んぼの稲作風景を 小学生が再現！】

区立大泉橋戸公園の「田んぼ」は、園内に残る弁天池の湧水を活用し、かつて白子川流域で行われていたものを復元整備したもの。水田面積は230㎡で6枚の田んぼに分かれている。平成24年度から周辺の大泉第一小、大泉北小、橋戸小の児童が毎年稲作体験を行っており、同校の児童らは今年6月に田植えを体験している。